

愛知青少年公園 整備計画策定にかかわる基礎資料

平成16年5月

愛知県公園緑地課

愛知青少年公園の概要

1 公園の位置と規模

位置: 愛知県愛知郡長久手町南東部にあり、東部から南部にかけて瀬戸市と豊田市に隣接している。

立地環境: 尾張丘陵に位置する緩やかな起伏を持った緑豊かな丘陵地にあり、周辺には大学や研究機関等の集積も見られるなど、文化性の高い環境となっている。

アクセス: 公園北側に猿投グリーンロード(主要地方道力石名古屋線)、西側に県道田名名古屋線が通る。

博覧会時にはリアモーターカーによる東部丘陵線が開業。地下鉄藤ヶ丘駅を經由して名古屋市都心部から鉄道で結ばれる。

博覧会に向けて(仮)日進JCT~(仮)長久手JCTが部分開通予定の名古屋瀬戸道路を介し、東名高速道路を通じて県外からのアクセスも容易。

規模: 敷地面積 約190ha



2 公園の位置付け

本公園は平成14年より都市計画公園(広域公園)に位置づけられている。

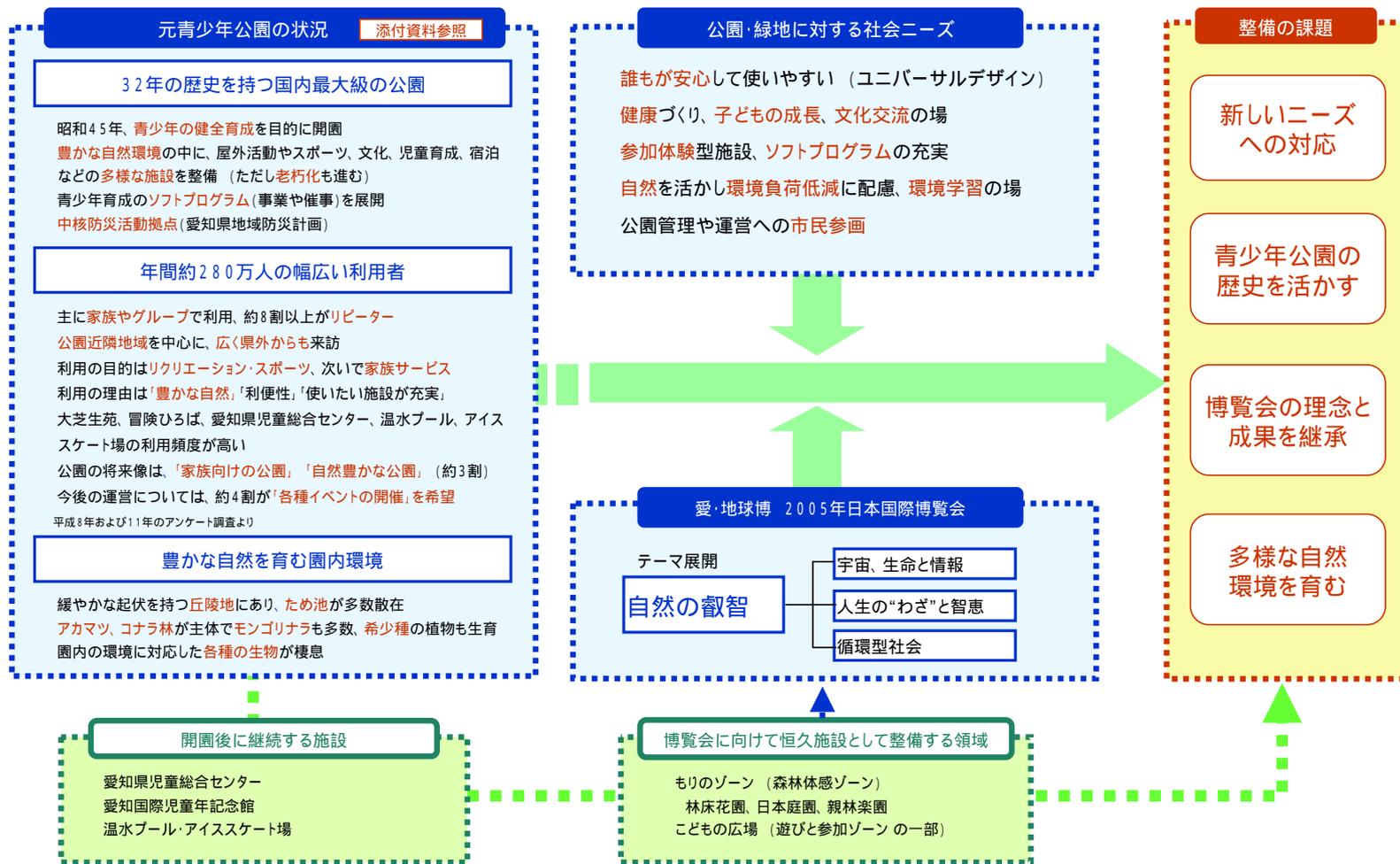
都市計画公園とは

- ・都市計画公園とは都市計画法に基づいて設置および管理される公園である。
- ・良好な都市環境の形成、防災など都市の安全性向上、レクリエーション活動の場の確保、都市景観の向上を図ることを目的としている。

広域公園とは

都市計画公園の種別のひとつ。一つの市町村の区域を超える広域レクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、交通の利便の良い土地に配置する概ね50ha以上の公園をいう。

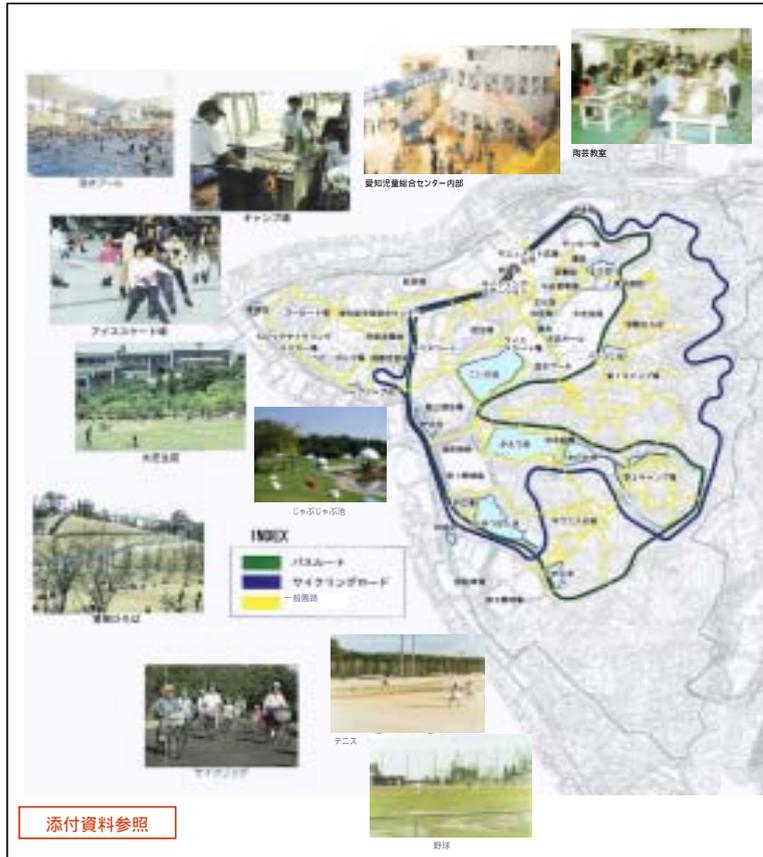




元青少年公園(閉園前)

閉園

博覧会時



4つの基本方針

新しいニーズに対応した
都市公園

ユニバーサルデザインに配慮した園路や広場の整備
高齢者などにも親しまれる、花と緑と水を活かした場の創出
広域的な防災拠点としての機能向上

青少年公園の歴史を活かした
都市公園

既存各種施設(スポーツ、交流、野外活動施設等)の
リニューアル

博覧会の理念と成果を継承する
都市公園

博覧会の理念と成果を継承する施設整備(環境学習施設等)
自然エネルギーの活用やリサイクルを図る施設の整備

多様な自然環境を育む
都市公園

樹林や水辺の美しさを体感する場の創出
環境に配慮した施設整備

広場のゾーン

～のびのびわくわく～

各種スポーツ・文化施設が配置された広場で、
緑や水にふれながら心と身体を解放して、家族
や仲間と遊び・楽しむゾーン

こどもの広場の一部は、博覧会
に向けて遊戯施設を整備
(6ページ参照)



自然の力や仕組みを体感



野外活動



水辺の遊び



もりのゾーン

～ゆったりいまいき～

樹林や池など豊かな緑の
中に身を置いて、自然とふ
れあい、憩い、学ぶゾーン

もりのゾーンは、博覧会に向け
先行して整備 (5ページ参照)



森の散歩



森の学習

保安ゾーン

樹林地の保全を図るゾーン

基本的な考え方

もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成
誰もが森に入って楽しめるようユニバーサルデザインに配慮
環境負荷低減に配慮
伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園を整備

林床花園

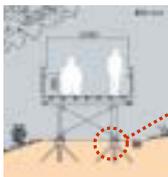
樹林地の間伐を行い、林床部や林縁部に花木や草花の自生を促し、四季折々の風景が楽しめる空間を造る。
園路にはユニバーサルデザインを導入し、お年寄りから小さなお子様まで多くの方々が楽しめる森とする。



ユニバーサルデザインの幹線園路



幹線園路エレベータ棟 イメージ



幹線園路デッキ部 断面図

幹線園路デッキ部
・間伐材を活用
・自然への負荷が軽い工法を採用



従来より改変面積が少ないピン杭工法。

自己完結型トイレ

汚水をバクテリアで分解後、加熱して水分と残渣に分離。
水分は脱臭してトイレ洗浄水などに循環利用する。
(残渣は蓄積して処分)



樹林地の間伐

今まで放置されていた樹林地内環境を間伐により改善



'もりのゾーン'全体計画平面図



親林楽園

フィールドセンター内での環境学習や体験教室をはじめ、樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい学習し、自然環境への理解を深める。
博覧会時には、「森林体感ゾーン」で展開される環境学習プログラムの活動拠点となる。



環境観察デッキ イメージ



フィールドセンター外観 イメージ



センター内部での活動 イメージ

リサイクルセンター

・公園内の植物系廃棄物(刈草・剪定枝葉)などを堆肥化して園内に還元。
・環境学習プログラムの実践の場(緑の循環の仕組みを学ぶ)

日本庭園

「水(=自然)」と「土(=素材)」と、この地の伝統産業である「焼き物」の象徴としての「火(=わざ)」をテーマに、風土の魅力を新たな庭園像の中で表現。
また、水や大地を象徴する「竜」をデザインのモチーフとし、川上に向かって駆け上がる竜の姿から、こどもたちの成長を願う青少年公園の理念を伝える。



日本庭園計画平面図

茶室 イメージ

環境教育の場としての活用

樹林地内での野外活動やフィールドセンターにおける環境学習活動、四季折々の自然とのふれあい、環境負荷低減への取り組みを学ぶことなど、環境教育の場として活用。

博覧会プログラム「森の自然学校」 ～森の中で五感と想像力を使う体験プログラム～

博覧会では、もりのゾーンを活用して自然とふれあう体験プログラムを展開し、参加体験を通じて自然と人との関係を見直すきっかけを提供。



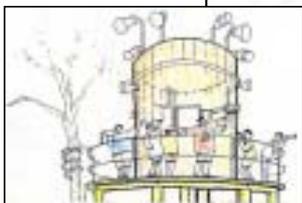
基本的な考え方

- ・既設の愛知県児童総合センター、愛知国際児童館と連携し、子どもの遊び、自然体験学習の場を整備
- ・自然の力や仕組みを体感する遊戯施設を整備

森のエリアの遊具

ユニバーサルデザインの園路上に、「森」を体感できる遊戯施設を整備

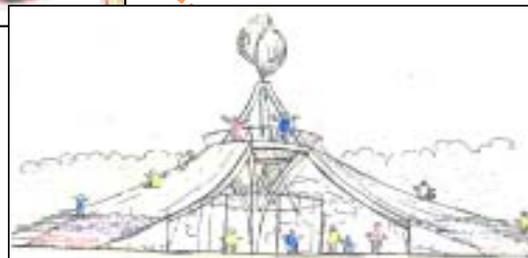
- ・森の音を聴き、動物の目を疑似体験して森が見られる遊具
(下イメージ図)
- ・森の夜空を疑似体験できる遊具
- ・木の楽器で音を奏でる遊具



水のエリアの遊具

川の仕組みを体験できる河原の再現と水の力で遊ぶ

- ・小石を自由に動かして山や川を作ったり、ジャブジャブ遊べる池
- ・足こぎ水車、アルキメデスの水車

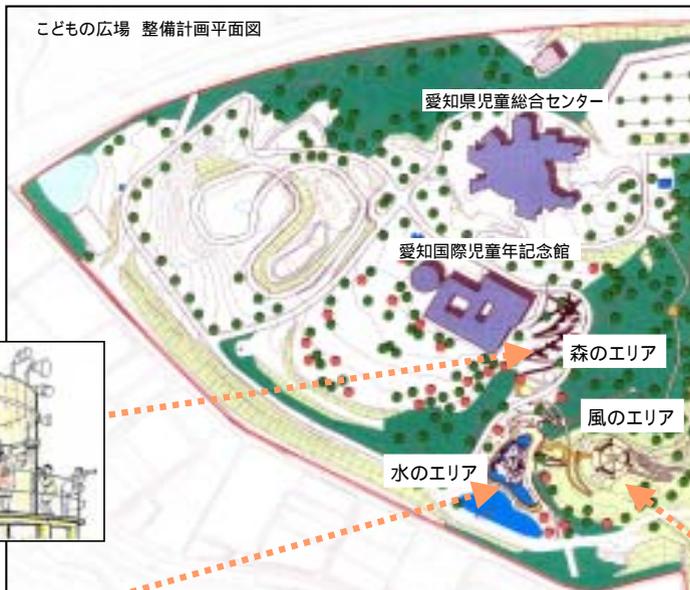


風のエリアの遊具

このエリアのランドマークとなる遊戯施設を整備

- ・風の力が学べる風車
- ・地中と外気の温度差が体感できるチューブ

こどもの広場 整備計画平面図



博覧会プログラム

「グローイング・ヴィレッジ」

～「自然の中で、遊び、育つ」プログラムを展開～

博覧会では、木登りなどの遊びをとおして、子どもたちに自然の叡智・「グローイング(育み・育てる)」を体験してもらおうとなる。



グローイング・ヴィレッジ イメージ